

英語科学習指導案

教育実習校

日時 令和5年11月7日(火)第4時限

場所 教室

学年・組 第1学年3・4組(16名)

教科指導教諭:

授業者:

1. 単元(題材)名

教科書: CROWN English Communication I

Lesson7 Living in Alaska, Section2

2. 単元(題材の目標)

本教科書では、4技能それぞれでできるようになって欲しいことと、習得すべき文法表現が、単元目標として設定されている。まず、リーディングの分野では、写真家の星野道夫さんによる、アラスカとその自然についての文章を理解できるようになることである。次に、リスニングの分野では、地球温暖化の影響についての会話を聞き取ることができるようになることである。その次に、スピーキング(やりとり・発表)の分野では、身近な環境問題について、自分の取った写真を見せながら紹介できるようになることである。そして、懸念する環境問題について、自分の意見を書けるようになることである。最後に、“seem to～; it seems that～”、“S+is+C(C=that節)”と“S+V+C(C=分詞)”を習得できるようになることである。

3. 教材観

本教科書は、生徒の知的好奇心を刺激する新鮮な題材が数多く取り扱われている。また、図や写真が豊富であるため、生徒が内容を理解する際の手助けになっている。加えて、単元の題材に関連した発問が豊富に掲載されているため、生徒の言語活動を促進させることができる。なお、本教科書が制作・編集された目的の1つとして、読解力・思考力の向上がある。

4. 生徒観

英語コミュニケーション1では、習熟度別で教室が分けられており、習熟度a・bは各HR教室、習熟度cは人文棟で授業を行っている。予習(新出単語の意味調べ・本文を読んできてくこと・サブノートに掲載されている問題を解いてくこと)をこなした上で、授業に参加している生徒が多いものの、そうではない生徒もいる。また、授業内の解説やべ

アワークに対し、意欲的に取り組む生徒がほとんどである。

5. 指導観

サブノートの使用を通して、重要な語句や文法事項や表現を確認させたり、音読やディクテーション、英訳・和訳をする機会を積極的に設けさせたりすることで、生徒の知識・技能の向上に力を入れている傾向にある。もちろん、英語は言語であるため、将来、英語を運用できるように、英語の問いに対して英語で話すような実践の機会を取ることは大切である。しかし、英語を使って、何かを考えたり、表現したりすることができるようになるためには、前提として、語彙や文の構造を理解する知識・技能が必要になってくる。そのため、授業では、授業者が丁寧に解説しながら生徒の理解度を逐一確かめ、生徒の語彙力や文法の習得を促すよう注力する。

6. 単元の指導計画（全8時間程度）

第1時 Lesson7の導入、Section1における新出単語の意味・発音を確認

第2時 Section1の本文理解

第3時 Section1の本文理解の続きと演習

第4時 Section1の演習の続きとSection2の本文理解（本時）

第5時 Section2の本文理解の続きと演習

第6時 Section3の本文理解

第7時 Section3の本文理解の続きと演習

第8時 Section4の本文理解

第9時 Section4の本文理解と演習と単元のまとめ

7. 本時のねらい

前置きとして、Lesson7は、星野さんが講演されたときの文章が掲載されている。そして、Lesson7 Section2では、星野さんのアラスカを知ったきっかけや、アラスカでどのような体験をしたのかを知った上で、星野さんのアラスカでの経験について、更に深く理解していく部分である。そのため、星野さんが感じてきた「アラスカの自然」ならではの良さを、各段落の流れを意識しながら理解できるよう、本文理解をさせていく。また、今回のお話は講演であるため、星野さんが、どのような思いでアラスカを旅してきたのかを、生徒自身に考えさせる機会を取り、生徒の思考力を高める。加えて、本文の内容を理解させる際に、新出単語の意味や文法事項を丁寧に確認させ、生徒の語彙や文法の定着を目指す。

8. 評価

【知識・技能】

新出・既習に関わらず、本文で使用されている単語・文法の意味・使われ方・表現を理解することができる。

【思考力・判断力・表現力】

授業で投げかけられた問いかけに対し、自分なりの考えを生み出すことができる。

【主体的に学習に取り組む態度や姿勢】

ペアワーク、授業中の質問・問いかけに対し、積極的に参加し、本文を理解しようとする姿勢が見られる。

9. 本時の展開 (計 50 分) ※定刻になり次第、号令をかけさせる

時間	活動内容	生徒の働き	授業者の動き	指導上の留意点
〈導入〉 5～7分程度	○Section1 演習の続き	○Section1 の単語・表現を再度発音し、確認する。 ○Section1 のディクテーションを行う。	○発音し、生徒も発音するよう促す。 ○Section1 の音声を2回流す。	○少し遅いスピードの音声を流し、生徒の解く力に配慮する。
〈展開〉 12～14分程度	○Section2 の新出単語・表現の確認	○発音を聞き、音源に続いて、発音を練習する。 ○意味・発音や、類似表現を確認する。 ○1分半程度、単語を出し合う。時間があれば、単語テストも行う。	○音源を流しながら、生徒が発音をきちんとしているかどうか、解説を聞いているかどうか確認する。 ○本文理解に向けた板書が必要であれば板書を行う。板書事項がなければ、机間巡視を行う。	○丁寧に解説し、生徒の単語・表現の理解度向上に努める。また、生徒の様子に合わせて、話すスピードを調整する。
2分	○本文リスニング (音源)	○本文を見ながら、内容を聞き取る。	○予習をしている生徒には、内容を再確認してもらおうことも兼ねてリスニング	○全体を見渡し、集中してリスニングを行っているかどうか確認する。

			を促す。予習をしていない生徒には、初見の文章に慣れてもらうために促す。	
10分程度	○第1段落の内容を確認	<p>①音源に続いて、第1段落の文章を発音する。</p> <p>②第1段落で、どのような話がされていたか、ペアで1分間程度確認する。</p> <p>③解説を10分間程度聞く。質問・問いかけの際に、個人・ペアで発言する。</p>	<p>①音源を流しながら、授業者自身も発音し、生徒の発音する意欲を高めさせる。</p> <p>②板書が必要であれば板書を行う。必要がなければ、机間巡視を行い、生徒の様子を観察する。</p> <p>③新出単語・文法を丁寧に確認するため、1分ずつ解説する。</p>	<p>①発音する際に、ディスプレイを見るよう促し、視覚から、重要表現や新出単語・文法を意識させる。</p> <p>②大まかに内容をつかませ、授業者の解説を理解しやすくさせる。</p> <p>③生徒の様子に配慮し、解説のスピードや量を調節する。また、「1文目」「2文目」のような言葉は使用せず、生徒が、話の流れをつかみやすくなるよう考慮する。</p>
10分程度	○第2段落の内容を理解	<p>①音源に続いて、第2段落の文章を発音する。</p>	<p>①音源を流しながら、授業者自身も発音し、生徒の発音する意欲を高めさせる。</p>	<p>①発音する際に、ディスプレイを見るよう促し、視覚から、重要表現や新出単語・文法を意</p>

		<p>② 第2段落で、どのような話がされていたか、ペアで1分程度確認する。</p> <p>③ 解説を10分程度聞く。質問・問いかげの際に、個人・ペアで発言する。</p>	<p>②板書が必要であれば板書を行う。必要がなければ、机間巡視を行い、生徒の様子を観察する。</p> <p>③新出単語・文法を丁寧に確認するため、1分ずつ解説する。</p>	<p>識させる。</p> <p>②大まかに内容をつかませ、授業者の解説を理解しやすくさせる。</p> <p>③生徒の様子に配慮し、解説のスピードや量を調節する。また、「1文目」「2文目」のような言葉は使用せず、生徒が、話の流れをつかみやすくなるよう考慮する。</p>
<p>(まとめ) 7分以内</p>	<p>○問いかげ1: "Which do you want to visit, Alaska or national parks in America?"</p> <p>○問いかげ2: 「なぜ、星野さんにも魅力があるにもかかわらず、アラスカを好むんでしょうか？」</p>	<p>① ペアで1分間程度話す。可能であれば、英語で話す。</p> <p>②ペアで話したことを全体で1分程度確認。</p> <p>○時間があれば、指名された後に、何人かが考えを答える。時間がなければ、授業者の解説を聞くか、次の授業で考える機会を再度設</p>	<p>①英語で問いかけた後に、理解が難しい生徒に配慮し、日本語でも問いかける。30秒</p> <p>②1人以上は当てる。</p> <p>○時間があれば指名する。時間がなければ、授業者が「星野さんは、国立公園のような人工的に作った自然よりも、人為的ではないありのま</p>	<p>○解説が終わった時点で、授業終了時刻まで残り2分以内であった場合は、次の授業の冒頭で、問いかげ1・2をそれぞれ行うようにする。</p>

	<p>○次回の授業で行う範囲の確認 10秒～1分半以内</p>	<p>ける。 ○次回の授業の範囲を確認する。</p>	<p>まの自然を好んでいるんでしょうね。」と伝え、Section3以降の話と繋げていく。 ○次回の授業で行う範囲を伝えた上で、予習をしていなかった生徒に向けて、予習を行うよう促す。</p>	
--	-------------------------------------	--------------------------------	--	--